

1. D部の厚みについて

競技仕様書：m.「D部は、支給された t1.1 mmの板材を t1.0 mmに圧延し」と指示のところ、課題図面(部分図D)の指示寸法に誤り(t1.1 mmと表示)が有りました。

- ・ D部の厚みは、支給材を t1.0 mmに圧延加工後、指示された形状になるよう作業をしてください。

2. D部の仕様について

競技仕様書：n.「D部は、各珠座部分は、 $\phi 2.5$ mmとし、凹みをつけてから支給された $\phi 0.8$ mmの丸線で芯を立てること。芯を立てる下穴は、必ず貫通させてから丸線をろう付し、裏面は面一(鏡面状)に仕上げること。」

- ・ 貫通させて芯を立てる場合、企業によっては、裏面に芯を少し残して(飛び出させて)ろう付をするように指導している企業もありますが、当大会では、裏面を面一(鏡面状)にすり合わせてください。やすり目が残らないよう注意すること。
最終的仕上げは、火肌仕上げとします。(磨き仕上げではありません。)

3. D部の接点に関する指示について

競技仕様書：p.「D部は、裏面図で示すように、A部・B部にそれぞれ2箇所ずつ、ろう付をする。」

- ・ D部(珠座)は、本体A部と本体B部の裏側にそれぞれろう付してください。
(右側面図では、接点を読み取りにくくなっていますので注意してください。)
また、珠座とA部・B部とのつなぎ手部分の長さも、がたつきが無く安定するよう長さを研究してください。